

## 被爆の実相を学ぶ 平和の旅ナガサキ



碑めぐり（平和案内人の話を聞く）

8月8日（水）から9日（木）、組合員とその家族、役職員を合わせた13名がナガサキを訪問し、被爆の実相を学びながら戦争や核兵器のない平和な未来を願いました。参加者は、原爆落下中心碑や浦上天主堂などでガイドの説明を聞きながら実相を学び同時に思いを馳せました。また長崎原爆資料館を見学し、平和祈念式典にも参列をしました。



### 参加者の感想

- 被爆地を訪れ、戦争について核兵器について学習する事は平和のためにできることです。そして伝えることも大事だと改めて思いました。
- 僕は長崎に行って戦争のおぞましさを知りました。たった一発の原爆がなにも悪くない一般の人々を大量に殺し生き残った人々の体や心までも傷つけたことを忘れてはいけません

## 現地でこそわかる現実 福島スタディツアー



8月18日（土）から19日（日）、今年で4回目となる福島スタディツアーを実施し、組合員とその家族20名が参加しました。コープふくしまの役員に同行いただき、原発事故から7年経過した今でもなお復興が大きく遅れている福島県沿岸地域をバスで視察しました。2日目には福島市内の果樹園で桃狩りをし、旬の桃をほおぼりながら安全性と美味しさを体験しました。

コープいしかわでは今後も、福島の現状を知り、被災した地域や暮らしの復興を応援する取り組みを継続してまいります。

### 参加者の感想

- コープふくしまの方の話を聞いて何もしていない自分に気づき、「ならば何を？」と深く考えさせられました。言葉を選びながら被災者に接するコープふくしまの理事さんの心情が強く察せられました。
- 復興は少しずつ進んでいると思ったが荒廃した土地や新家が廃屋になっている現実にとっても驚いた。道路を隔てて居住制限区域と帰還困難区域に分かれた被災者の気持ちを考えると涙が出た。

## 西日本豪雨被害の真備町へ職員を派遣しました

7月30日（月）から8月2日（木）の4日間、岡山県生協連の要請を受け、西日本豪雨災害で大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町に設置された災害ボランティアセンターの運営支援として職員を1名派遣しました。ボランティアセンターでは、トイレ掃除やボランティアの誘導、資材洗浄場の設置や洗浄支援などを担当しました。

コープいしかわでは9月上旬に職員を対象としたボランティアバスを予定しており、今後も、被災した方々に寄り添い、復旧復興を支援してまいります。



災害ボランティアセンターでボランティアを誘導する組合員活動部 藤岡さん



応援メッセージ旗もお届けしました

